

# 2017年3月期 決算説明資料

ぷらっとホーム株式会社

(東証第二部 6836)

2017年5月12日

# 会社概要

設立 : 1993年3月

上場 : 2000年7月 東証マザーズ上場  
: 2014年8月 東証2部へ市場変更

社長 : 鈴木 友康

社員数 : 43人(2017年3月31日現在)

決算期 : 3月

事業内容 :

- Linuxを始めとするオープンソースソフトウェアを装備した自社製品コンピュータの提供
- 自社製品を補完する商品を中心とした周辺機器/ネットワーク機器の提供、業務用IT機器のECサイト「ぷらっとオンライン」の運営
- 保守、サポート並びにSI等のサービスの提供

当社のミッション: “コネクティビティの提供”  
「Connectivity for Everything」

# 商品構成と注力事業

	マイクロサーバー	IAサーバー・ストレージ	一般商材他
自社製品 コンピュータ	マイクロサーバー本体 (アプライアンス含む)	IAサーバー ストレージ	
コンピュータ 関連商品	オプション品		仕入商材
サービス・ その他	サポートサービス 設定設置 ソリューション 等	保守、修理 設定設置 等	保守、修理等

マイクロサーバーは「IoT市場」に不可欠 ➡ **最大の注力事業**

# IoTに最適なマイクロサーバー・ラインナップ



## IoT特化型 OpenBlocks IoTファミリ

IoTに必要とされるゲートウェイ用途に最適。さまざまな通信プロトコルに対応  
小型で消費電力が低く、無線及び有線のインターフェースを搭載した  
IoT/M2Mシステム向けマイクロサーバー製品



## サーバー製品 OpenBlocks Aファミリ、MonsterV4

常時稼働に求められるコンパクトさ、超低消費電力、堅牢性、拡張性を兼  
備し、サーバークオリティの信頼性  
IoT/M2Mの基盤となる各種ネットワークサーバー用途のほか、アプライア  
ンスのベース製品としても最適



## アプライアンス製品 EasyBlocks

マイクロサーバーをベースハードウェアとし、ネットワーク系ソフトウェアを  
搭載した高付加価値マイクロサーバー製品  
DHCP、DNS、Syslog、監視・管理といったIoT/M2Mネットワークに必要な  
機能をオールインワンで提供

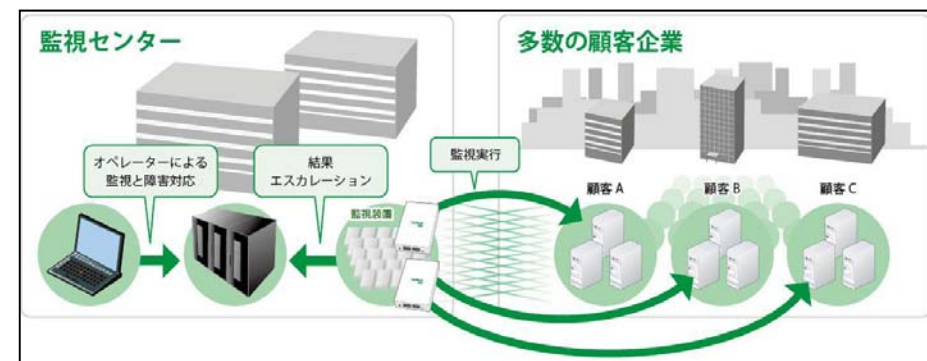
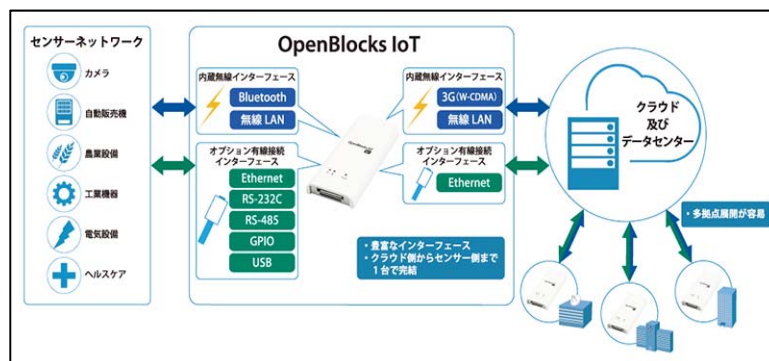
# マイクロサーバーの導入事例

## IoT/M2M用途

- 都市型見守りサービス
- 電力管理システム
- 市街地の環境測定
- 地震計測機
- 監視カメラシステム
- ビーコンソリューション
- 工場機械の故障予兆検知
- 衛生設備のデータ収集
- 住宅の地震・雷被害データ収集

## サーバー用途

- 大規模監視
- 不正PC検知・排除
- DHCPサーバ
- ハードウェア監視サービス
- VPNゲートウェイ
- Proxyサーバ
- 船舶通信機器監視
- リモートアクセスサービス
- TV会議システム



# 当期の取り組みと状況

## 拡大するIoT市場への対応 ①

### 急拡大するIoT市場を パートナーとのアライアンスで取り込む

- 2016年 4月 5日 Linux Foundationの新しい社会インフラシステムのプロジェクトに設立メンバーとして参加
- 2016年 4月25日 IoTの推進へブロックチェーン技術の普及や進化を目的とした「ブロックチェーン推進協会」に発起メンバーとして参加
- 2016年 5月10日 ベストセラーIoTゲートウェイがMicrosoft Azure Certified for IoT 認定を取得
- 2016年 5月11日 IoTゲートウェイがソフトバンクの「IoTクラウドサービス on CONNEXIVE」に採用
- 2016年 5月19日 IBM Watson IoT Platformを利用した屋内外の位置測位が可能なIoTソリューションパッケージを発表
- 2016年 6月22日 ふらっとホームと日東工業「屋外IoT・監視システムボックス」を共同発表
- 2016年 7月13日 ソラコムグローバル対応SIM「SORACOM Air Global」に対応
- 2016年 7月26日 IoTビジネスの拡大を目指す、日本IBM「Watson IoT Platformパートナーエコシステム」に参加
- 2016年 9月28日 高性能IoTゲートウェイで住宅の地震・雷被害データのエッジコンピューティングを実現 ふらっとホームのIoTゲートウェイが日東工業の実証実験で採用
- 2016年10月24日 「IoTセンサー・デバイスパートナープログラム」を開始
- 2017年 2月13日 ラックシステムとふらっとホーム、IoTデバイス分野で協業

## 拡大するIoT市場への対応 ②

### IoT・M2M関係の展示会への出展を積極的に実施

- IoT/M2M展 春・秋
- de:code 2016
- SORACOM Conference 2016 “Discovery”
- Interop Tokyo 2016
- IBM Watson Summit 2016
- IoT共創ラボEXPO
- Watson IoT Platform Arcade
- IoTの「T」が見れるでShow！
- 国際物流総合展2016
- IoT Technology 2016
- Intel IoT Solutions Conference 2016
- SEMICON Japan 2016
- SECURITY SHOW 2017 等

### IoT市場へ向け、製品群の強化を継続

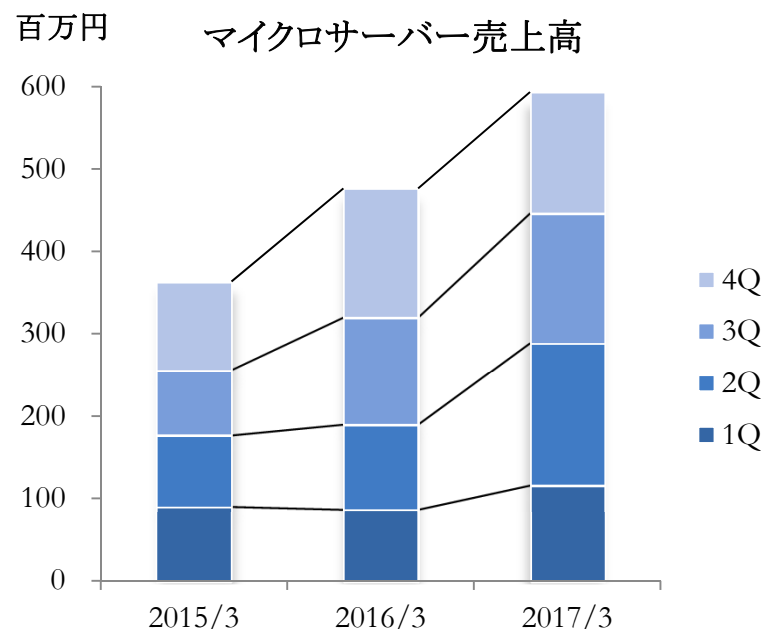
- 2016年 4月27日 IoTシステムの構築に最適なSoftBank 4G LTE対応のIoTゲートウェイ「OpenBlocks IoT BX3L」を発表
- 2016年 5月 9日 NTTドコモのLTEサービスエリアに対応したOpenBlocks IoT EX1用オプション製品を発表
- 2016年10月24日 IoTにおけるエッジコンピューティングを実現するIoTゲートウェイ「OpenBlocks IoT VX1」を発売開始
- 2017年 2月 7日 IoTゲートウェイ統合遠隔管理サービス「AirManage for IoT」をSaaS方式で提供開始





# マイクロサーバー事業の進捗 ①

## 売上高が前年同期に比べ大幅に増加



	2016年3月期	2017年3月期	前年同期比	
	金額	金額	増減額	増減率
売上高	476	593	117	24.6%
売上総利益	213	262	49	23.1%
粗利率	44.8%	44.2%	△0.5p	

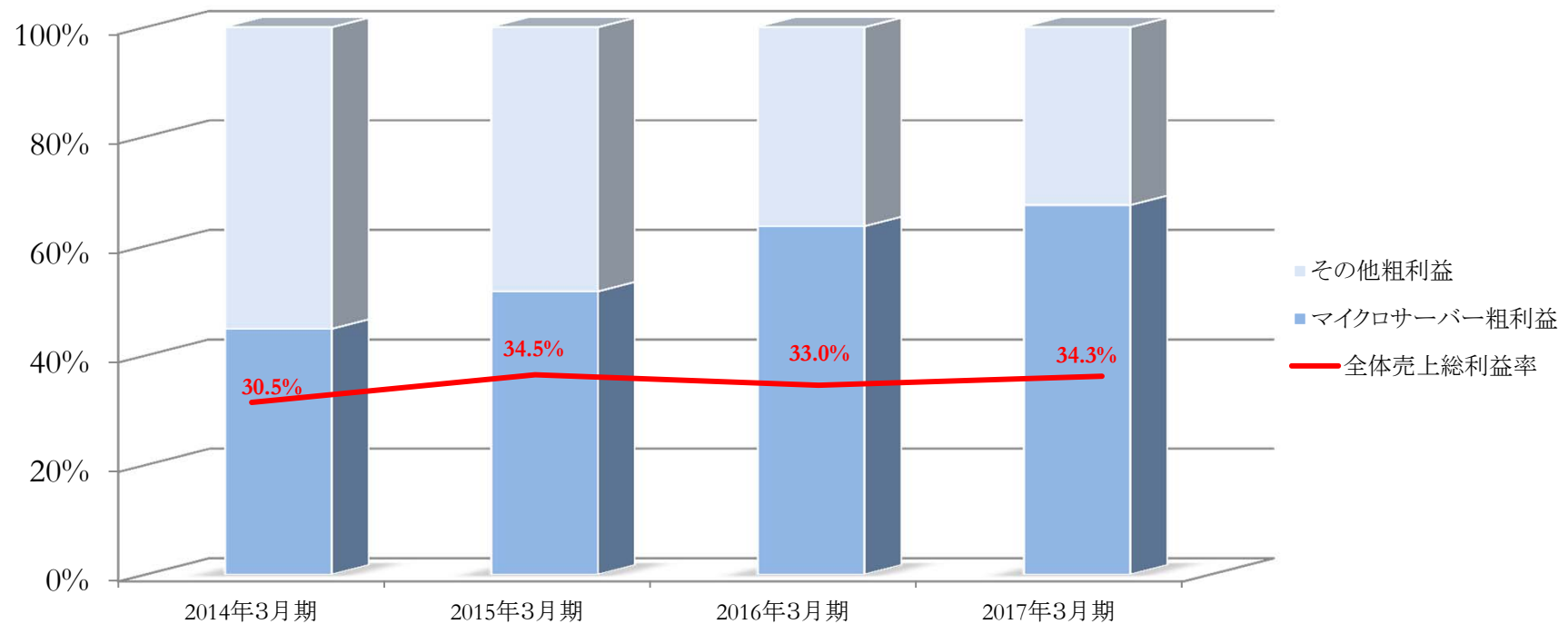
(単位 百万円未満切捨、%)

通信用途での大口出荷があったのをはじめ、IoTファミリの出荷がIoT実証実験のための引き合いの増加を受けて前年同期に比べ増加し、売上高は大幅に増加

## マイクロサーバー事業の進捗 ②

マイクロサーバー関連の売上総利益が全体の67.5%に上昇

売上総利益の構成比及び売上総利益率



# 損益計算書

売上高はマイクロサーバーの売上増加により増加  
 販管費はIoT市場へ向けた投資が先行

	2016年3月期		2017年3月期		前年同期比	
	金額	売上比	金額	売上比	増減額	増減率
売上高	1,017	100.0	1,133	100.0	116	11.5
売上総利益	335	33.0	389	34.3	53	16.1
販管費	566	55.7	621	54.8	54	9.7
営業利益	△231	△22.8	△232	△20.5	△0	—
経常利益	△230	△22.7	△218	△19.2	12	—
当期純利益	△239	△23.6	△227	△20.0	12	—

マイクロサーバーの売上増加により、全体の売上も増加

IoT市場に向けた投資を先行実施

投資事業組合運用益12百万円計上

(単位 百万円未満切捨、%)

# 販売費及び一般管理費

本格化するIoT市場へ向けて積極的に投資

	2016年3月期	2017年3月期	前年同期比	
	金額	金額	増減額	増減率
人件費	329	372	43	13.1
広告・販促費	44	37	△6	△14.9
支払手数料	50	59	8	17.4
その他	142	151	9	6.6
販管費合計	566	621	54	9.7

営業人員の増加等

大幅に増加した前期よりは減少

研究開発費 (各費目に含む)	89	105	15	17.3
-------------------	----	-----	----	------

製品群の強化を継続

(単位 百万円未満切捨、%)

# 貸借対照表

	2016年3月		2017年3月		前期末比	
	金額	構成比	金額	構成比	増減額	増減率
現金預金	954	64.2	643	50.1	△311	△32.6
売掛金	160	10.8	137	10.7	△22	△14.1
たな卸資産	291	19.6	342	26.7	51	17.7
その他	21	1.4	95	7.4	73	349.3
流動資産	1,427	95.9	1,219	94.9	△208	△14.6
固定資産	60	4.1	65	5.1	4	7.0
資産合計	1,488	100.0	1,284	100.0	△204	△13.7
流動負債	259	17.4	270	21.1	11	4.5
固定負債	31	2.1	32	2.5	1	3.8
負債合計	290	19.5	303	23.6	12	4.4
純資産合計	1,197	80.5	980	76.4	△217	△18.1
負債・純資産合計	1,488	100.0	1,284	100.0	△204	△13.7

主な内訳  
 商品・製品 35百万円  
 原材料 307百万円

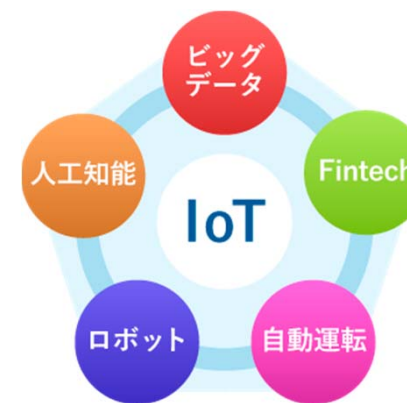
マイクロサーバーの原材料仕入に係る前渡金の増加

(単位 百万円未満切捨、%)

# 經營戰略

# IoT (Internet of Things :モノのインターネット)

IoT (Internet of Things :モノのインターネット)とは、様々なモノがインターネットで接続され、自律的かつリアルタイムに情報を送受信し相互に制御するシステムです。IoTは、人工知能・Fintech・自動運転などの技術とも密接に関連し、産業、生活に革新をもたらします。



## IoTの適用分野の例

分野	適用イメージ例
施設	・施設内設備管理の高度化(自動監視・制御等)
エネルギー	・需給関係設備の管理を通じた電力需給管理 ・資源採掘や運搬等に係る管理の高度化
家庭・個人	・宅内基盤設備管理、宅内向け安心・安全等サービスの高度化
ヘルスケア	・医療機関／診療管理の高度化、患者や高齢者バイタル管理
産業	・産業用設備の管理・追跡の高度化 ・鉱業、灌漑、農林業等における資源の自動化
運輸・物流	・輸送管理、交通システム管理の高度化
小売	・サプライチェーンに係る高度な可視化、顧客・製品情報の収集 ・在庫管理の改善、エネルギー消費の低減
公衆安全	・緊急機関、公共インフラ(環境モニタリング等) ・追跡・監視システム等の高度化
IT・ネットワーク	・オフィス関連機器の監視・管理の高度化 ・通信インフラの監視・管理の高度化

(出典)総務省「グローバルICT産業の構造変化及び将来展望等に関する調査研究」(平成27年)より作成

～全業種への波及～

IoTは、ITのみならず、全業種にわたる利用が予想される

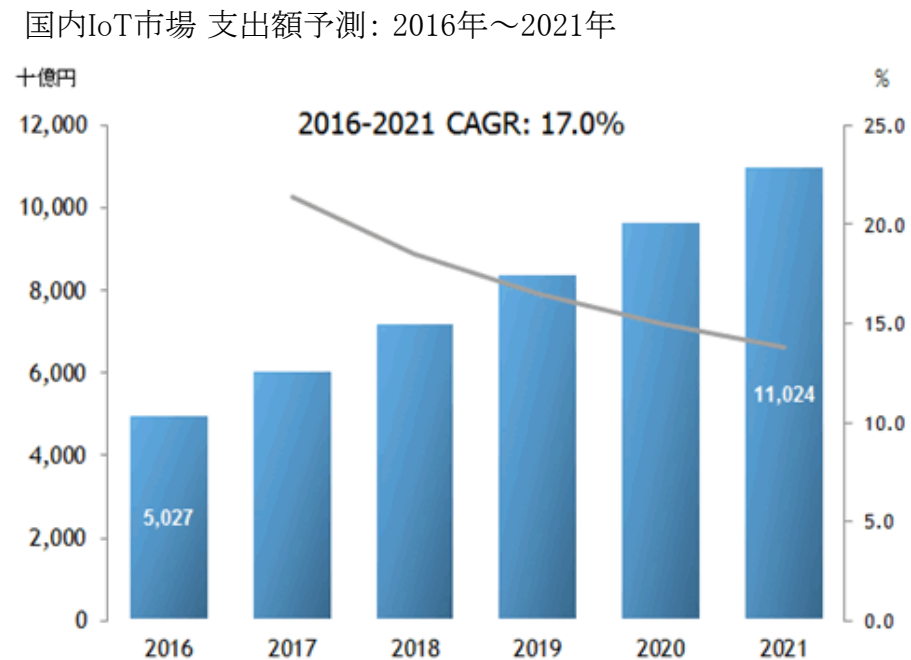


より多くのプレーヤが利用者・供給者として参加し、多次元の産業とインフラを巻き込んでいく

## 経営環境

IoT市場の立ち上がりは当初市場予測より遅れているものの  
今後については、高い成長率で推移することが予測されている

国内IoT市場は、2021年まで  
年間平均成長率17.0%で成長し、  
市場規模は11兆円に達する



Note:2016年は見込み値、2017年～2021年は予測値。  
折れ線は各年における前年比の成長率を表す。

出典：IDC Japanプレスリリース「国内IoT市場 ユースケース(用途)別／産業分野別予測を発表」(2017年2月20日)



## 2017年度の経営戦略

### IoT市場に向けた取り組みを強化

#### ・パートナー企業との連携と販売拡大

センサー・デバイスやクラウド分野とのパートナーシップに加え、今後は問題解決を担うエンジニアリング分野におけるパートナー企業との連携を広め、製商品やソリューションの開発を行い、相互の技術や販路を活用しつつ販売を拡大

#### ・サービス収益の強化

IoTの運用に必要なサービスを提供し安定的な収益を確保するため、IoTゲートウェイの統合遠隔管理サービスやIoTプラットフォームなどの収穫逡増型のSaaS型サービスを軌道に乗せる

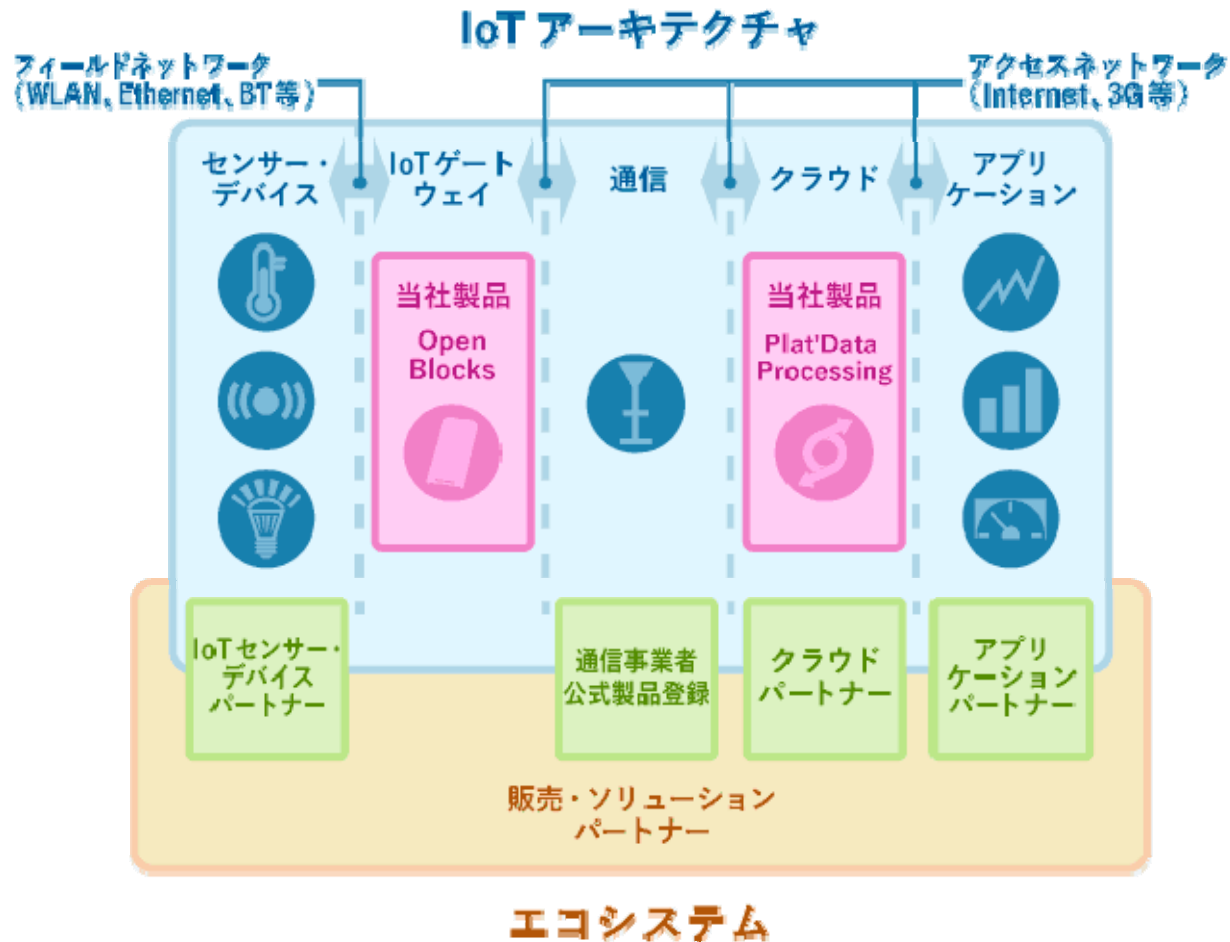
#### ・経費の削減

IoT市場における必要な投資は継続していくものの、製品ラインナップが充実したことにより開発費やマーケティング費用が減少となるのに加え、経費全体の削減を実施

顧客ニーズにフォーカスして、自社製品、技術サービス及びエコシステムにより、顧客の課題解決を実現し、収益の拡大を図る

# パートナー企業との連携

## IoTビジネスにおけるパートナー企業との連携 (エコシステムの構築)



## エコシステムの強化 <デバイス・センサー>

IoTの各分野のリーディング企業と協業プログラムをスタート  
「IoTセンサー・デバイスパートナープログラム」

プログラム加入企業様

**ALPS**<sup>®</sup>

アルプス電気株式会社

**OPTEX**  
Sensing Innovation

オプテックス株式会社

**FUJITSU**

富士通コンポーネント  
富士通コンポーネント株式会社

**ユニ電子株式会社**

ユニ電子株式会社

**ITEC**  
CORPORATION

アイテック株式会社

**stair**

スター精密株式会社

**RATOC**  
Systems, Inc.

ラトックシステム株式会社

**英和株式会社**

英和株式会社\*  
\*IoTセンサー・デバイス ビジネスパートナー

2017年5月8日にローム株式会社の  
参加を発表しております。

「IoTセンサー・デバイスパートナープログラム」(2016年10月24日発表)に基づきます。詳しくは当日のプレスリリースをご覧ください。  
会社名およびロゴ・商品・サービス名は、各社の登録商標または商標です。

# サービス領域の収益の強化

IoT市場で先行している「製品力」、「技術力」を活かし、  
サービス領域での収益を強化

## IoTソリューション

- コンサルティング
- 開発 (ソフトウェア・ハードウェア)
- システム構築

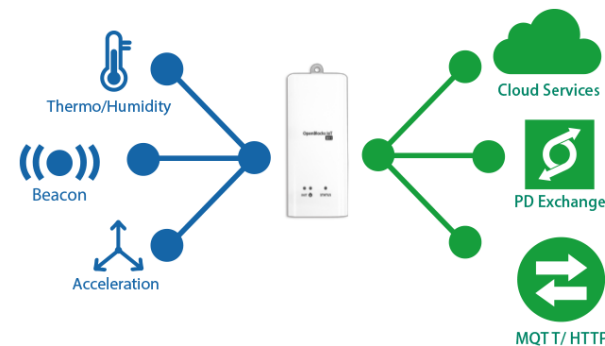
## IoTプラットフォーム

- 収穫逡増型のサービス収益基盤の構築  
及び顧客の開拓



強力なIoTゲートウェイ  
製品を軸に、  
さらに高収益化を進める

IPネットワークとセンサー(非IP)との  
接続や膨大なデータの処理、セキュリ  
ティなど、当社が持つオープンソース  
やIoTに関するノウハウを活用



## 業績予想

	2017年3月期	2018年3月期		
	通期実績	上期予想	通期予想	増減率
売上高	1,133	678	1,561	37.7%
経常利益	△ 218	△ 38	15	—
当期純利益	△ 227	△ 48	3	—

### 【売上高】

既に様々な規模、業種の顧客において実証検証に当社製品及びソリューションを利用していただき、このIoT市場における先行的な位置を活かし、売上と利益の増大を図る

### 【損益面】

IoT市場における必要な投資は継続していくものの、製品ラインナップが充実したことにより開発費やマーケティング費用が減少となるのに加え、経費全体の削減を実施

(単位 百万円未満切捨)



(注)スライドに記載された当社の見通し、戦略等は将来の市場動向、消費動向、経営環境  
その他予測不可能な要素により、異なる結果となる恐れを含んでおります。このため弊  
社は今回発表した内容を全面的に確約する義務を負うものではありません。